

[3]心筋症

[4]不整脈(主要な頻脈性、徐脈性不整脈)B

[5]弁膜症(僧帽弁膜症、大動脈弁膜症)

[6]動脈疾患(動脈硬化症、大動脈瘤)B

[7]静脈・リンパ管疾患(深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫)

[8]高血圧症(本態性、二次性高血圧症)A

(6)呼吸器系疾患

[1]呼吸不全B

[2]呼吸器感染症(急性上気道炎、気管支炎、肺炎)A

[3]閉塞性・拘束性肺疾患(気管支喘息、気管支拡張症)B

[4]肺循環障害(肺塞栓・肺梗塞)

[5]異常呼吸(過換気症候群)

[6]胸膜・縦隔・横隔膜疾患(自然気胸、胸膜炎)

[7]肺癌

(7)消化器系疾患

[1]食道・胃・十二指腸疾患(食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎)A

[2]小腸・大腸疾患(イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔瘻)B

[3]胆嚢・胆管疾患(胆石、胆嚢炎、胆管炎)

[4]肝疾患(ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、アルコール性肝障害、薬物性肝障害)B

[5]膵臓疾患(急性・慢性膵炎)

[6]横隔膜・腹壁・腹膜(腹膜炎、急性腹症、ヘルニア)B

(8)腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む。)疾患

[1]腎不全(急性・慢性腎不全、透析)A

[2]原発性糸球体疾患(急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群)

[3]全身性疾患による腎障害(糖尿病性腎症)

[4]泌尿器科的腎・尿路疾患(尿路結石、尿路感染症)B

(9)妊娠分娩と生殖器疾患

[1]妊娠分娩(正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥)B

[2]女性生殖器及びその関連疾患(月経異常(無月経を含む。)、不正性器出血、更年期障害、外陰・膣・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍、乳腺腫瘍)

[3]男性生殖器疾患(前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍)B

(10)内分泌・栄養・代謝系疾患

[1]視床下部・下垂体疾患(下垂体機能障害)

[2]甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症)

[3]副腎不全

[4]糖代謝異常(糖尿病、糖尿病の合併症、低血糖)A

[5]高脂血症B

[6]蛋白及び核酸代謝異常(高尿酸血症)

(11)眼・視覚系疾患

[1]屈折異常(近視、遠視、乱視)B

[2]角結膜炎B

[3]白内障B

[4]緑内障B

[5]糖尿病、高血圧・動脈硬化による眼底変化

(12)耳鼻・咽喉・口腔系疾患

[1]中耳炎B

[2]急性・慢性副鼻腔炎

[3]アレルギー性鼻炎B

[4]扁桃の急性・慢性炎症性疾患

[5]外耳道・鼻腔・咽頭・喉頭・食道の代表的な異物

(13)精神・神経系疾患

[1]症状精神病

[2]認知症(血管性認知症を含む。)A

[3]アルコール依存症

[4]気分障害(うつ病、躁うつ病を含む。)A

[5]統合失調症(精神分裂病)A

[6]不安障害(パニック症候群)

[7]身体表現性障害、ストレス関連障害[B]

(14) 感染症

[1]ウイルス感染症(インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎)[A]

[2]細菌感染症(ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア)[B]

[3]結核[B]

[4]真菌感染症(カンジダ症)

[5]性感染症

[6]寄生虫疾患

(15) 免疫・アレルギー疾患

[1]全身性エリテマトーデスとその合併症

[2]慢性関節リウマチ[B]

[3]アレルギー疾患[B]

(16) 物理・化学的因子による疾患

[1]中毒(アルコール、薬物)

[2]アナフィラキシー

[3]環境要因による疾患(熱中症、寒冷による障害)

[4]熱傷[B]

(17) 小児疾患

[1]小児けいれん性疾患[B]

[2]小児ウイルス感染症(麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ)[B]

[3]小児細菌感染症

[4]小児喘息[B]

[5]先天性心疾患

(18) 加齢と老化

[1]高齢者の栄養摂取障害[B]

[2]老年症候群(誤嚥、転倒、失禁、褥瘡)[B]

C 特定の医療現場の経験

必修項目にある現場の経験とは、各現場における到達目標の項目のうち一つ以上経験すること。

(1) 救急医療

生命や機能的予後に係わる、緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応をするために、

1) バイタルサインの把握ができる。

2) 重症度及び緊急度の把握ができる。

3) ショックの診断と治療ができる。

4) 二次救命処置(ACLS = Advanced Cardiovascular Life Support、呼吸・循環管理を含む。)ができに参加し、一次救命処置(BLS = Basic Life Support)を指導ができる。

※ ACLS は、バッグ・バルブ・マスク等を使う心肺蘇生法や除細動、気管挿管、薬剤投与等の一定のガイドラインに基づく救命処置を含み、BLS には、気道確保、心臓マッサージ、人工呼吸等機器を使用しない処置が含まれる。

5) 頻度の高い救急疾患の初期治療ができるに参加する。

6) 専門医への適切なコンサルテーションができるの現場に参加する。

7) 大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる。

必修項目 救急医療の現場を経験すること

(2) 予防医療

予防医療の理念を理解し、地域や臨床の場での実践に参画するために、

1) 食事・運動・休養・飲酒・禁煙指導とストレスマネジメントができるに参加する。

2) 性感染症予防、家族計画を指導できるの現場に参加する。

3) 地域・産業・学校保健事業に参画できる。

4) 予防接種を実施できるの現場に参加する。

必修項目 予防医療の現場を経験すること

(3) 地域医療

地域医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

1) 患者が営む日常生活や居住する地域の特性に即した医療(在宅医療を含む)について理解し、実践する。

2) 診療所の役割(病診連携への理解を含む。)について理解し、実践する。

3) へき地・離島医療について理解し、実践する。

必修項目 へき地・離島診療所、中小病院・診療所等の地域医療の現場を経験すること

(4) 周産・小児・成育医療

周産・小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

1) 周産期や小児の各発達段階に応じた適切な医療が提供できるを説明できる。

- 2) 周産期や小児の各発達段階に応じて心理社会的側面への配慮ができる。
- 3) 虐待について説明できる。
- 4) 学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画できる。
- 5) 母子健康手帳を理解し活用できる。

必修項目 周産・小児・成育医療の現場を経験すること

(5) 精神保健・医療

精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

- 1) 精神症状の捉え方の基本を身につける。
- 2) 精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。
- 3) デイケアなどの社会復帰や地域支援体制を理解する。

必修項目 精神保健福祉センター、精神科病院等の精神保健・医療の現場を経験すること

(6) 緩和ケア、終末期医療

緩和ケアや終末期医療を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、

- 1) 心理社会的側面への配慮ができる。
- 2) 治療の初期段階から基本的な緩和ケア(WHO方式がん疼痛治療法を含む。)ができるを説明できる。
- 3) 告知をめぐる諸問題への配慮ができる。
- 4) 死生観・宗教観などへの配慮ができる。

必修項目 臨終の立ち会いを経験すること

(7) 地域保健

地域保健を必要とする患者とその家族に対して、全人的に対応するために、保健所、介護老人保健施設、社会福祉施設、赤十字社血液センター、各種検診・健診の実施施設等の地域保健の現場において、

- 1) 保健所の役割(地域保健・健康増進への理解を含む。)について理解し、実践する。
- 2) 社会福祉施設等の役割について理解し、実践する。

水 準 I	水 準 II	水 準 III
指導医の指導・監視のもとに実施が許容されるもの	状況によって指導医の指導・監視のもとに実施が許容されるもの	原則として指導医の実施の介助または見学にとどめるもの
3. 治 療		
<p>(看護的業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体位交換, おむつ交換, 移送 (処置) ・皮膚消毒, 包帯交換 ・外用薬貼付・塗布 ・気道内吸引, ネブライザー ・導尿, 浣腸 ・ギブス巻 (注射) <p>(外科的処置)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抜糸, 止血 ・手術助手 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業療法 (介助) 	<ul style="list-style-type: none"> ・創傷処置 ・胃管挿入 ・皮内, 皮下, 筋肉 ・静脈 (末梢) ・膿瘍切開, 排膿 ・縫合 ・鼠径ヘルニア用手還納 	<ul style="list-style-type: none"> ・静脈 (中心), 動脈 ・全身麻酔, 局所麻酔 ・輸血 ・各種穿刺による排液 ・分娩介助 ・精神療法 ・眼球に直接触れる治療
4. 救 急		
<ul style="list-style-type: none"> ・バイタルサインチェック ・気道確保 (エアウェイによる), 人工呼吸, 酸素投与 	<ul style="list-style-type: none"> ・気管内挿管 ・心マッサージ ・電氣的除細動 	
5. そ の 他		
<ul style="list-style-type: none"> ・カルテ記載 (症状経過のみ学生のサインとともに書き入れ, 主治医のサインを受ける) ・健康教育 (一般的内容に限る) 	<ul style="list-style-type: none"> ・患者への病状説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族への病状説明

(参考資料) 医学教育モデル・コア・カリキュラムにおける地域医療教育

F 医学・医療と社会【地域医療】

一般目標：

地域医療の在り方と現状および課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を身に付ける。

到達目標：

- 1) 地域医療に求められる役割と機能および体制等、地域医療の在り方を概説できる
- 2) へき地および離島における地域医療の現状と課題について説明できる。
- 3) 医師の偏在（地域および診療科）の現状について説明できる。
- 4) 地域における、保健（母子保健、老人保健、精神保健、学校保健）・医療・福祉・介護の分野間の連携および多職種間の連携の必要性について説明できる。
- 5) 地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を身に付ける
- 6) 地域における、救急医療、災害医療、在宅ターミナルの体制を説明できる
- △7) 災害救急医療におけるトリアージを説明できる。
- △8) 地域医療に積極的に参加・貢献する。

G 臨床実習【地域医療臨床実習】

一般目標：

地域社会（へき地・離島を含む）で求められる医療・保健・福祉・介護の活動について学ぶ。

到達目標：

- 1) 地域のプライマリ・ケアを体験する。
- 2) 病診連携・病病連携を体験する。
- 3) 地域の救急医療、在宅医療を体験する。
- 4) 多職種連携のチーム医療を体験する。
- 5) 地域における疾病予防・健康維持増進の活動を体験する。

実習形態：

学外の地域病院、診療所、保健所、社会福祉施設など

症例：

地域病院あるいは診療所などの状況に応じた症例

アンケートへのご回答の御願い

患者さんへ

この度は学生の地域医療実習にご協力いただき、誠にありがとうございました。今回の担当学生（ ）の実習態度の評価の一環として、以下のアンケートにお答えいただければ幸いです。

はい、いいえのどちらかを○で囲んでください。

- | | | |
|---------------------|----|-----|
| 1. 毎日お部屋に来ましたか？ | はい | いいえ |
| 2. 言葉使いはていねいでしたか？ | はい | いいえ |
| 3. やさしさを感じましたか？ | はい | いいえ |
| 4. よく話を聞いてくれましたか？ | はい | いいえ |
| 5. よく勉強しているようでしたか？ | はい | いいえ |
| 6. 信頼できる医師になりそうですか？ | はい | いいえ |

将来、この学生が医師になった時に診てもらいたいですか？
何れかの番号を○で囲んでください。

- 1) 是非、主治医になってほしい。
- 2) 主治医になってもかまわない。
- 3) わからない。
- 4) 診てもらいたくない。

その他お気づきの点がありましたら遠慮なく御記入下さい。

平成 年 月 日
病院名：

ご芳名（ ）

指導医による学生の評価

実習施設名： _____ 指導医名： _____
学籍番号： _____ 氏名： _____ 実習期間： _____ 月 _____ 日～ _____ 月 _____ 日

A：出席の評価

- | | | |
|-------------------|----|---|
| 1) 正当な理由のある欠席の日数 | 合計 | 日 |
| 2) 無断欠席（総体・離脱）の日数 | 合計 | 日 |

B：学生の態度・知識・技能に対する評価（10項目）

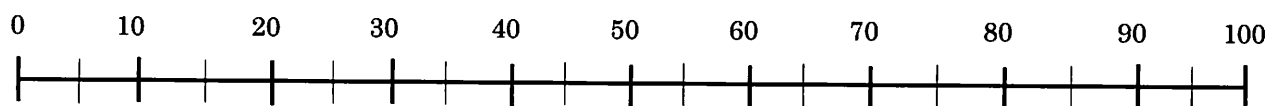
<選択肢>

5：強くそう思う（とても良い） 4：そう思う（良い） 3：どちらとも言えない（普通）
2：そうは思わない（余り良くない） 1：全くそう思わない（悪い）

- | | | |
|-------------------------------|--------|---------------|
| ① 身なり・服装が医師に相応しいものであった。 | -----> | (5 4 3 2 1) |
| ② 患者に対して言葉使いが適切であった。 | -----> | (5 4 3 2 1) |
| ③ 礼儀正しく患者（家族）・職員に接することが出来た。 | -----> | (5 4 3 2 1) |
| ④ 積極的な態度で患者（家族）に接することが出来た。 | -----> | (5 4 3 2 1) |
| ⑤ 基礎知識の量と理解度は十分であった。 | -----> | (5 4 3 2 1) |
| ⑥ 医療面接（病歴聴取）はほぼ完全であった。 | -----> | (5 4 3 2 1) |
| ⑦ 丁寧で適切な身体診療を行うことが出来た。 | -----> | (5 4 3 2 1) |
| ⑧ 問題点の把握とそのアセスメントは適切であった。 | -----> | (5 4 3 2 1) |
| ⑨ 患者とのコミュニケーションに優れていた。 | -----> | (5 4 3 2 1) |
| ⑩ 良好な人間関係を保ち、診療チームの一員として行動できた | ----> | (5 4 3 2 1) |

C：その他のご意見（ご自由にお書きください）

D：総合評価



（指導医あるいは指導責任者が総合評価し、上のスケールに×印を付けてください）

平成23年 月 日

評価者氏名： _____

学生による地域医療実習の評価

実習施設名： _____ 指導医名： _____
学籍番号： _____ 氏名： _____ 実習期間： _____ 月 _____ 日～ _____ 月 _____ 日

<選択肢>

5：強くそう思う（とても良い）	4：そう思う（良い）	3：どちらとも言えない（普通）
2：そうは思わない（余り良くない）	1：全くそう思わない（悪い）	

A：実習の説明・時期・期間等に対する評価（6項目）

- ① オリエンテーションで実習の到達目標が理解できた。-----> (5 4 3 2 1)
- ② オリエンテーションで実習内容（行動目標）が理解できた。--> (5 4 3 2 1)
- ③ 実習先は希望する病院（地域）であった。-----> (5 4 3 2 1)
- ④ 実習の時期（6年次生：4月～7月）は適切であった。----> (5 4 3 2 1)

「1・全くそう思わない（悪い）、2. そうは思わない（余り良くない）」と回答した場合のみ

実習の時期について、いつ頃がよいと考えますか？

- ⑤ 実習の期間（2週間）は適切であった -----> (5 4 3 2 1)

「1・全くそう思わない（悪い）、2. そうは思わない（余り良くない）」と回答した場合のみ

実習の期間について、どれ位がよいと考えますか？

- ⑥ 実習の人数は適切であった -----> (5 4 3 2 1)

「1・全くそう思わない（悪い）、2. そうは思わない（余り良くない）」と回答した場合のみ

実習の人数について、どれ位がよいと考えますか？

C：指導医に対する評価（3項目）

- ① 指導医は丁寧に対応してくれた。-----> (5 4 3 2 1)
- ② 指導医は地域医療について良く説明してくれた。-----> (5 4 3 2 1)
- ③ 指導医は患者・医師関係の規範となる態度を示してくれた。--> (5 4 3 2 1)

D：実習内容に対する評価（10項目）

- ① 病院の病棟診療に参加する機会があった。-----> (5 4 3 2 1)
- ② 病院の外来診療に参加する機会があった。-----> (5 4 3 2 1)
- ③ 診療所の外来診療に参加する機会があった。-----> (5 4 3 2 1)
- ④ 往診・在宅診療に参加する機会があった。-----> (5 4 3 2 1)
- ⑤ 福祉・訪問介護に参加する機会があった。-----> (5 4 3 2 1)
- ⑥ 救急診療に参加する機会があった。-----> (5 4 3 2 1)
- ⑦ 住民と懇談する機会があった。-----> (5 4 3 2 1)

- ⑧ 保健業務に参加する機会があった。-----→ (5 4 3 2 1)
- ⑨ 地域医療に取り巻く社会状況を説明できるようになった。---→ (5 4 3 2 1)
- ⑩ 総合的に見て実習は充実していた -----→ (5 4 3 2 1)

D：到達目標に対する評価（8項目）

- ① 地域医療に求められる役割と機能および体制等、
地域医療の在り方を概説できる。-----→ (5 4 3 2 1)
- ② へき地における地域医療の現状と課題について説明できる。--→ (5 4 3 2 1)
- ③ 医師の偏在（地域および診療科）の現状について説明できる。--→ (5 4 3 2 1)
- ④ 保健・医療・福祉・介護の分野間の連携について説明できる。--→ (5 4 3 2 1)
- ⑤ プライマリ・ケアの必要性を説明できる。-----→ (5 4 3 2 1)
- ⑥ 地域における救急医療、在宅ケアの体制を説明できる。-----→ (5 4 3 2 1)
- ⑦ 患者、医療スタッフ、住民と良好にコミュニケーションできた。--→ (5 4 3 2 1)
- ⑧ 地域医療に積極的に参加できた。-----→ (5 4 3 2 1)

E：全体評価（自由記載欄）

以下の3項目について記載してください。評価のために3項目とも記載が必須です。

- 1) この実習で良かった点は何ですか
- 2) この実習で改善してほしい点がありますか
- 3) この実習で印象に残ったことは何ですか

お疲れ様でした。

クリニカル・クラークシップ自己評価表（全科共通）

配属先 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____

配属期間 H _____ . _____ . _____ ~ H _____ . _____ . _____ (Stage1 ・ Stage2)

※いずれかに○をしてください。

各診療科等の基本方針（目的・到達目標）、方法（内容・行動指針）等を勘案して、以下の項目で適切と思われる評価を□欄に記載して下さい。

1. 出席の評価

- 正当な理由のある欠席を除き、全日程に出席した。
- 無断欠席（早退・離脱）などが1回あった。
- 無断欠席（早退・離脱）などが2回以上あった。

2. 実習中の身だしなみ・態度・動作・言葉づかい等

- S A B C 不可

3. 問題志向型システム・科学的根拠にもとづいた医療

（基本的診療知識にもとづき、情報を収集・分析できる。得られた情報をもとに、問題点を抽出できる。病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。診断・治療計画が立てられる。科学的根拠にもとづいた医療（EBM）を実践できる等）

- S A B C 不可

4. 医療面接

（礼儀正しく患者（家族）に接することができる。プライバシーへの配慮し、患者（家族）との信頼関係を形成できる。医療面接における基本的コミュニケーション技法を実践できる。病歴聴取（主訴、現病歴、既往症、家族歴、社会歴、システムレビュー）を実践できる等）

- S A B C 不可

5. 診療記録とプレゼンテーション

（診療録をPOMR形式で記載できる。毎日の所見と治療方針をSOAP形式で記載できる。受持ちの患者の情報を診療チームに簡潔に説明できる等）

- S A B C 不可

6. 当該グループ・科における総括自己評価

（基本方針（目的・到達目標）の達成度。方法（内容・行動指針）に沿っての成果。注意事項遵守等）

- S A B C 不可

平成 年 月 日

クリニカル・クラークシップ評価表（全科共通）

配属先 _____ 学籍番号 _____ 氏名 _____
 配属期間 H _____ . _____ ~ H _____ . _____ (Stage1 ・ Stage2)
 ※いずれかに○をしてください。

各診療科等の基本方針（目的・到達目標）、方法（内容・行動指針）等を勘案して、以下の項目で適当と思われる評価を□欄に記載して下さい。

1. 出席の評価

- 正当な理由のある欠席を除き、全日程に出席した。
- 無断欠席（早退・離脱）などが1回あった。
- 無断欠席（早退・離脱）などが2回以上あった。

2. 実習中の身だしなみ・態度・動作・言葉づかい等

- S A B C 不可

3. 問題志向型システム・科学的根拠にもとづいた医療

（基本的診療知識にもとづき、情報を収集・分析できる。得られた情報をもとに、問題点を抽出できる。病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。診断・治療計画が立てられる。科学的根拠にもとづいた医療（EBM）を実践できる等）

- S A B C 不可

4. 医療面接

（礼儀正しく患者（家族）に接することができる。プライバシーへの配慮し、患者（家族）との信頼関係を形成できる。医療面接における基本的コミュニケーション技法を実践できる。病歴聴取（主訴、現病歴、既往症、家族歴、社会歴、システムレビュー）を実践できる等）

- S A B C 不可

5. 診療記録とプレゼンテーション

（診療録を POMR 形式で記載できる。毎日の所見と治療方針を SOAP 形式で記載できる。受持ちの患者の情報を診療チームに簡潔に説明できる等）

- S A B C 不可

6. 当該グループ・科における独自の評価

（基本方針（目的・到達目標）の達成度。方法（内容・行動指針）に沿っての成果。注意事項遵守等）

- S A B C 不可

7. 自由記載

(_____)

【総合評価】

- S (90点) A (80点) B (70点) C (60点) 再実習 不可 (_____ 点)

(再実習、不可の場合の理由： _____)

評価者氏名

平成 年 月 日

指導医 _____

指導責任者（教授等） _____

地域医療実習 責任者・担当者

実習責任者

地域医療学センター	センター長	野口隆之
	内科分野教授	宮崎英士
	外科分野教授	白石憲男

実習担当者

地域医療学センター内科分野	宮崎英士、阿部 航、加島 尋、増田曜章
地域医療学センター外科分野	白石憲男、野口 剛、上田貴威

事務担当者

地域医療学センター	福田裕美、小田美香、古田さやか
-----------	-----------------

地域医療学センター 連絡先

電 話: 097-586-6306

ファックス: 097-586-6307

Email address: chi-ryou@oita-u.ac.jp